

2016年11月27日 「霊肉界一体時代」 石川祐司教会長

<訓読のみ言>

『真の父母經』

第十一篇 超宗教平和運動と霊界解放の摂理

第三章 霊肉界一体時代と霊界解放 第四節 霊連世協会時代と霊界大革命

12 私は、いつ逝くか分かりません。私は自分の行く道に対して、八〇パーセントは目星をつけています。どのように生きなければならないかについてです。二〇パーセントに対しては、教えてくれなくても、私が開発し、摂理の道を正してきた内容があるので、心配もしていません。

霊界に行けば、複雑なすべてのこと、忘れてしまった人々まで探し出して、再び教育しなければなりません。そのようにしなければ、霊界で怨讐視するのです。真の父母ではなく、偽りの父母だったと宣伝するというのです。自分たちを忘れてしまうのは、ある一時において、私がより価値あるものとして記憶するためです。世話になったことを、私は忘れません。自分が置かれる立場のことはすべて忘れることができますが、世話になったことは何百倍、何千倍、返してあげようとするのです。

13 霊界を知らない人は、かわいそうな人です。限りなくかわいそうです。それを知れば、批判することができません。幾重にも塞がったその道を、どのようにかき分けていくのですか。

私が霊界に行けば、霊界を大革命するでしょう。切ってしまうものは切ってしまい、道が塞がっていれば道を造り、トンネルも通すでしょう。霊界では、私が来ることを願っています。行けば、何千年もの歴史が飛んでいくのです。知らずに生きる人は赦しを受けますが、知っているのに知らないふりをした人は、そのみ言に対して責任を負わなければなりません。天が見つめている度量、見つめる観点がどれほど高く貴いかと思うとき、それと比べて自分自身はどれほど卑しいでしょうか。その差を埋める道がないというのです。

14 皆さんは、霊界、今後行く所について何も知りません。私が霊界に行けば、革命を起こすでしょう。今まで地上で（お父様に）付いていくことができませんでしたが、そのようなことは問題にもなりません。何段階、何百段階、飛び越えていかなければならない、そのような革命が待っているのです。ですから、霊界に行っている人々を地上に送るでしょう。地上を経てきなさいというのです。

15 私が霊界に行けば、霊界をそのままにはしておきません。大革命が起きます。革命が起きれば、霊界にいる人は、どのようになるでしょうか。皆さんが先頭に立って、そのような風を起こしておきなさいというのです。どれほど重大な問題か分かりません。